

船舶事故等調査報告書

平成23年4月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010門第195号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成22年7月12日 14時20分ごろ	
発生場所	大分県臼杵市臼杵港 臼杵港防波堤灯台から真方位215°660m付近 (概位 北緯33°07.4′ 東経131°48.6′)	
事故等調査の経過	平成22年12月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	貨物船 第二十一 ^{くにひさ} 邦久丸、199トン	
船舶番号、船舶所有者等	131247、徳島海事工事有限会社	
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	船底中央部に擦過傷	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか4人が乗り組み、臼杵港で木材チップ約580tを積載し、船首約2.8m、船尾約3.5mの喫水で同港から出航中、平成22年7月12日14時20分ごろ、船底に衝撃を感じた。</p> <p>本船は、点検後、船体、機関、そのほかに異常がなかったので通常の航海を続けた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 雨、風向 北東、風力 2</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の末期</p>	
その他の事項	<p>船長は、臼杵港への入港は初めてであり、潮汐表で潮位を海図で岸壁の水深を調べたが、浅所の存在に気付かなかった。</p> <p>海図によれば、岸壁周辺には、水深2.8mの浅所がある。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	なし
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、臼杵港内を出航中、船長が浅所の存在に気付かなかったため、同浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、臼杵港内を出航中、船長が浅所の存在に気付かなかったため、同浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	